

# えべつの未来づくりミーティング

～ 子育て中のパパ・ママ（子育て支援センターすくすく利用者）編 ～

令和4年7月8日（金） 子育て支援センターすくすく  
午前10時～午前11時15分

## 1 江別市の「強み」「弱み」は

・強みは、買物や子育て支援センター、図書館などに車で行く時、駐車場に止めやすいなど、ゆとりがあるところ。イオン江別店は、映画館のほか、洋服、化粧品、食品、雑貨などが揃っていて、子どもが迷子になっても探しやすいので安心だと札幌市に住む友人が話していた。江別市子育てひろば「ぼこ あ ぽこ」も便利だという声を聞いたことがある。

・強みは、公園が多いこと。最近では、小学生の意見を取り入れながら遊具を更新しており、遊びやすい公園が増えていると感じている。

・弱みは、幹線道路は広いが、少し中に入ると、狭かったり、途中で狭くなる道路があったりすること。また、JR江別駅周辺に買物をするとところがないので、スーパーマーケットがあれば良いと思う。



・江別市生まれで、札幌市に住んでいたこともあるが、住みやすいので江別市に戻って来た。きれいになっていく公園がある一方で、自分が住んでいる近所の公園は老朽化が進んでいる。江別市出身なので、自分は江別市の特産品を知っているが、あまり出回っていないため知られていないことが残念。もう少しPRしてほしい。

・水遊びをさせることができる公園でも、タイルがはがれていることがあるので、遊ばせるには危険ではないかと思ってしまう。湯川公園も、昔は水辺にいろいろな生物がいたが、今は水が汚れてきていると感じる。きれいな水が流れる公園にしてほしい。

・遊具は更新されているが、乳幼児が遊べる遊具が少ないと思う。保育士として幼児を連れて市内の公園に行くことがあるが、小学生には登れるが、未就学児には登れない遊具もある。小さな子どもが利用することも想定して設置してほしい。

・強みは、札幌市が近くて、すぐ行くことができること。生活の便利さと、ほどよい自然が両立している。弱みは、大企業が少ないので税収が少ないこと。勤めるところがあることによって人が集まると思うので、もっと企業誘致をするべきだと思う。

・乳幼児を遊ばせる際に、公園に柵がないことが不安。子どもは急に車道に飛び出してしまうので、注意しながら遊ばせている。

・札幌市のベッドタウンだが、交通アクセスが非常に弱いと昔から思っている。自分が学生時代に、江別市から札幌市内の高校に通学していた時も、JR駅に接続するバスの便数が少なく、自家用車で送迎してもらっていた子が多かった。自分は自転車通学していたが、風が強くて大変だった。その状況は今も変わらないので、将来、子どもが通学することを考えると、不便さを感じている。

・自分の夫が、JRで札幌市内の会社に通勤する時、行きのバスの便はあるが本数が少なく、帰りが遅い時に間に合うバスの便はない。JR駅の周辺に住んでいる人は札幌市まで通いやすいかもしれない



が、JR駅から離れている人は不便だと思う。通勤・通学の時間帯に、JR駅に接続するバスの便がもう少し増えたらよいと思う。ハルユタカや町村農場、レンガなど、江別市の魅力はいろいろあるので、もっと推していけば良いのではないだろうか。ハルユタカは道外でも人気で、なかなか手に入らず貴重とされている。

- ・企業が少なければ、税収は増えないので、弱みだと思う。今は新しい宅地とともに人口が増加しているが、いつかは行き詰まると思う。



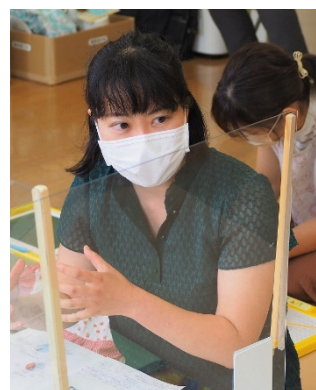
- ・草地の上に遊具がある公園で、草が伸び過ぎているところがある。アダプトプログラムにより管理されているという看板が立てられている公園もあり、とても良い取組だと思うが、民間や自治会などの力を借りながら、もう少し細やかに管理をすることができないかと感じる。

- ・強みは、高速道路が近く、インターチェンジも二つあるので、子どもを連れて市外の遊び場に行く時のアクセスが良いこと。小樽水族館や岩見沢市内の公園に行く時も、高速道路に入るまでの距離が短いので、便利だと感じている。弱みは、市内に大学が四つあり、多くの大学生が市内にいますが、卒業すると、その多くが市外に転出してしまうこと。卒業するまでの間に、江別市の魅力を感じてもらうことが大事だと思う。

## 2 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・大学生が卒業後、市外に転居することは、ある程度仕方がないことだと思うが、結婚や出産、家を作る時など、人生の節目に、江別市に戻って来たいと思わせることが大事だと思う。出産・子育て世代など戻って来た人たちを支援していけば、人口減少を緩和させる対策になるのではないだろうか。また、市外の職場へのアクセスの良さ、通勤のしやすさを、端的な言葉で、見たり聞いたりした人の印象に残るようにアピールしてはどうだろうか。

- ・以前、大阪市のベッドタウンとなっている吹田市に住んでいたが、そこには大きな企業もあり、企業が自治体やスーパーマーケット、病院などと連携して、まちづくりに関する取組を行っていた。企業イメージが高まり、自治体も予算面で助かるという、ウィンウィン(win-win)の状況であった。



- ・市外から宅地を求めて、転入する人が多い。その時、江別市のほかに、恵庭市や北広島市も選択肢に入ると思うが、子育てのしやすさは選ぶポイントとなると思う。他の自治体ではやっていないような取組を、江別市が行うべきだと思う。例えば、子育て支援センターのような場所を、土日や祝日も利用できるようなになれば、共働き世代にとっての魅力となり、他の自治体に差をつけることができると思う。また、他自治体の例として、医療費の助成や障がい児の受入れなどを充実させることによって、隣の市から人口が流れてきているところもあった。住みよさを求めて、住む場所を探している方々を、いかに江別市で受け止められるか、他の自治体との差別化が重要だと思う。

- ・仕事があって生活費を得ることができて、子育て支援が充実していれば、子どもが増えて、結果として人口も増える。仕事については、隣接する札幌市内の就労環境を生かすことも考えられる。仕事は札幌市で、住む場所として江別市を選んでもらえるように、アクセスを充実させる方法でも良いのではないだろうか。千葉県流山市は、都心のベッドタウンとして、子育てしやすさや住みよさで選ばれて人口が増加していることで有名だが、そのような考え方は江別市にも通ずるのではないかと考えた。共働きの世帯が多いと思うので、共働き世帯が住みやすいと感じるまちになってほしい。

- ・子育て事業は、比較的充実していると思うが、それは、江別市に住んだことがあったり、学生時代を過ごしたりしたから分かる良さであり、他の人には伝わりづらい。自分も子どもを産むまで、江別市の子育て支援や環境が充実していることを知らなかった。もう少し強くアピールしてはどうだろうか。

- ・市内の大学に通っていた学生には、卒業後に転出した後、再び戻ってきてもらうよりも、できれば、引き続き市内にとどまってもらう方が良いと思うので、そのためには、産業の振興が必要だと思う。
- ・自分は、江別市の広報広聴課のTwitterをフォローしているが、今どきのお母さんたちは、YouTube、Instagram、TikTokで情報を得ている。子育て支援の情報発信は、若い親世代が使っているSNSも使った方が良いと思う。ハルユタカもだいぶん前に芸能人がテレビで紹介していた。江別市も、もっといろいろな方向にアンテナを張って情報を収集し、流行っているSNSを使って情報発信をすべきだと思う。遊具が遊びやすいことや、江別市子育てひろば「ぽこ あ ぽこ」が便利なことなどを、SNSで発信すれば、SNSをよく見ている働く世代や子育て世代の目に止まり、江別市に住みたいという人が増えるかもしれない。
- ・スマート農業（ロボットやAIなど先端技術を活用する農業）が進んでいるので、江別市内の複数の大学をつなげて、スマート農業を推進し、これから増えることが心配されている休耕地を市内大学の卒業生に引き継ぐことができないだろうか。
- ・保育園で預かってもらえる時間が午後7時までだと、他市で働くフルタイムの方は、仕事が終わって、JRで江別市に帰ってきてからは、迎えの時間に間に合わない。朝もギリギリになる。自分が昔住んでいた兵庫県芦屋市では、市が保育時間を1時間補助して午後8時まで延長していた。保育園で預けられる時間が長くなれば、遅れずに迎えに行かなければならないという親の心理的なプレッシャーが軽減されるのではないだろうか。保育時間が1時間延長されると、正社員でも江別市に住んでいれば働き続けられると考えたお母さんたちが転入してきてくれるのではないかと思う。
- ・母子モ（子育て支援アプリ）や、そのほかのサイトでも良いが、江別市内の各子育て支援センターで行われているイベントをまとめて見ることができるといい仕組みがあれば良いと思う。

